

- 管内酪農業の維持・発展には「担い手」の規模拡大が非常に重要。
- 平成29から行った暑熱対策の効果が低かった重点支援対象農家へ、暑熱対策と規模拡大のため、平成30年に畜舎移転を提案。
- 事故、疾病による廃用の低減、飼料費の低減を最優先で支援実施。
- 平成31年に畜舎移転を実現し、給与方法の見直しによりTMR購入量を削減。さらに、労働時間短縮や放牧利用経費を削減。
- 夏季の廃用は低減せず、支援を継続実施。

## 具体的な成果

- 1 事故、疾病による廃用を低減する取組
  - (1) 平成31年4月に移転を実現(写真1)。
  - (2) 移動時の事故で廃用が1頭発生。
  - (3) 暑熱対策として送風機の配置換えとミスト設置を行ったが、効果が見られず、夏季の廃用が多発した。
  - (4) 夏季廃用多発の原因が熱風の吹き込みにあると分析し、寒冷紗による陽陰帯設置とミスト取り付け場所の変更を行うこととした。

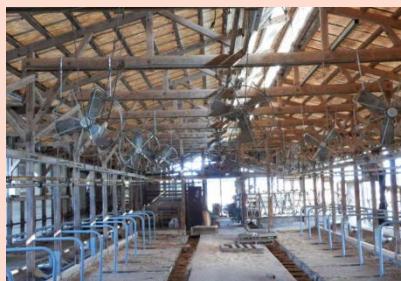


写真1 改修後の移転牛牛舎

## 2 飼料費低減の取り組み

- (1) 給与方法の変更によりTMRの購入量が削減された。
- (2) 牛群の泌乳量は安定したが、分娩後の立ち上がり乳量が伸びない状況は改善されなかつたので検討を継続することとした。
- (3) 飼料費低減効果の確認は決算後に行うこととした。

## 3 その他

- (1) 作業環境が良くなり、労働時間が短縮された。
- (2) 育成牛の飼育スペースが確保され、放牧利用経費が削減された。

## 普及員の活動内容

- 1 事故、疾病による廃用の低減の取組み
  - (1) 現状は牛舎が狭く風通しが悪いため暑熱対策の効果が得られない。
  - (2) 大山乳業指導課と協議し、現状の牛舎より環境、施設条件の良い町内の「空き牛舎」への移転を提案した。
  - (3) 牛舎の改修内容、補助事業の活用や資金繰りについて検討を重ね助言した。
  - (4) 自力で行う牛舎改修および牛の移動時の現場支援を行った。
  - (5) 移転後の牛の管理方法、施設の利用方法を助言した。

## 2 飼料費低減の取り組み

- (1) 現状はTMRセンター利用のため飼料費が高い。
- (2) TMRの飼料計算による適正な給与量を検討し、乳量にあわせた個別給与を提案した。見直し後の泌乳成績および牛の状態を確認し、給与方法の検討を継続した。

## 今後の普及活動に向けて

- 1 経産牛頭数の確保
  - (1) 直近の対策として大山乳業の預託牛を活用し、安価な経産牛を導入する。
  - (2) 長期的な対策として後継牛確保のための計画交配を徹底する。

## 2 暑熱対策の強化

送風機とミストの設置場所の変更、陽陰帯の設置、屋根の断熱処置について取り組む。